

流行ニュース :

< ウイルス性出血熱の噂、コンゴ民主主義共和国 >

ウガンダ、Gulu におけるエボラ発生から WHO は周辺国における類似した病気発生 の噂に対して断続的に調査を行ってきた。コンゴ民主主義共和国の Bunia、Buta、Dunguisiro、Nyankunde においてエボラの発生はなく、Bunia における疑わしい症例もウイルス性出血熱でなかった。

< エボラ、ウガンダ (最新情報) >

1月9日、Gulu で確認された 1 名のエボラ患者は、以前の患者と接触があった。Gulu における累積症例数は 395 例で、死亡者数は 150 人である。Mashindi においては 2000 年 12 月 19 日以降新しい症例は確認されていないが、累積症例数は 27 例、死亡者数は 19 人である。参照 : ¹ No.1、2001、p.1-2

< コレラ、南アフリカ (最新情報) >

2000 年 8 月中旬のコレラ発生から症例数は 15983 例、死亡者数は 60 人となった。参照 : ²No.1、2001、p.2

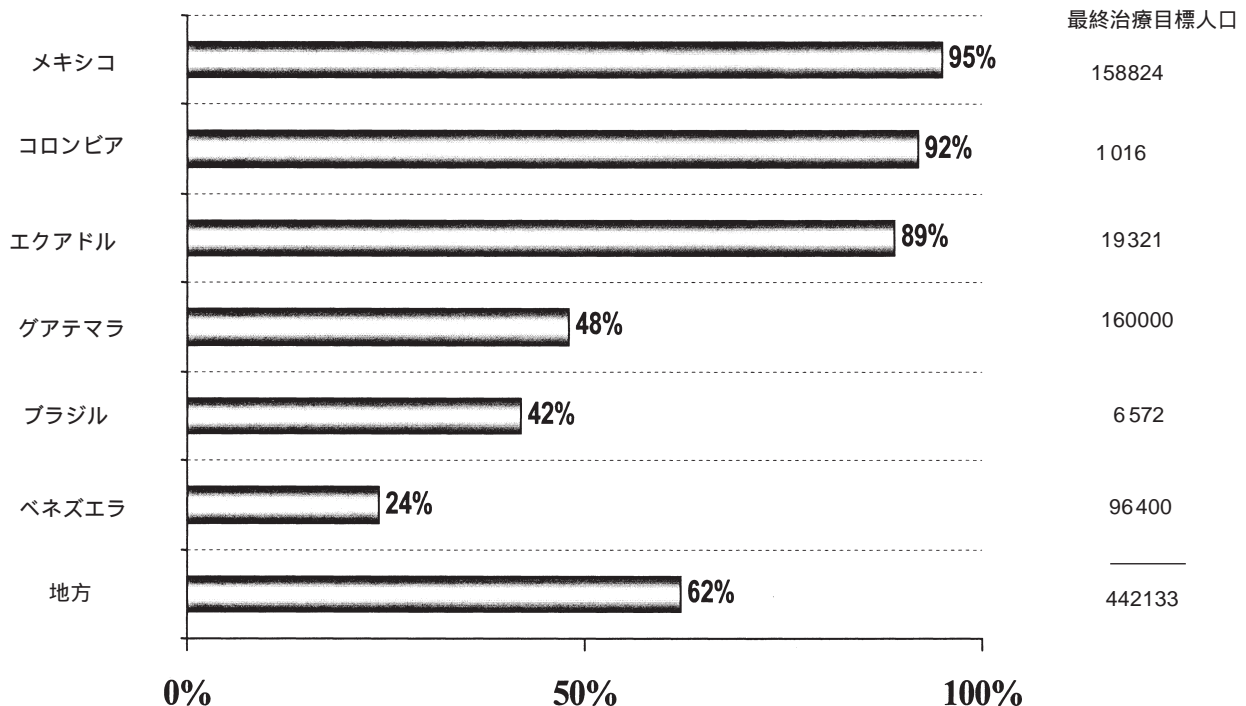
今週の話題 :

< オンコセルカ症、第 9 回アメリカ国家間会議 (IACO`99) の報告、グアテマラ、アンティグア開催 >

第 9 回アメリカ国家間会議 (IACO`99) では、アメリカ大陸 6 ヶ国において 1999 年に行われたオンコセルカ症の治療、及びその達成状況が報告された。

治療活動 : アメリカ大陸各国で、273,875 人がイバルメクチン (Mectizan) の治療を受け、これは年間治療対象者の 84%、最終治療目標数者の 62%にあたる。

図 1 : イバルメクチンによる治療達成率 (対最終治療目標数)、アメリカ大陸、1999 年、



上図は 1999 年アメリカ大陸各国における最終治療目標数におけるイバルメクチンによる治療達成率を示している。1999 年はメキシコ、コロンビア、エクアドルでは治療を受けた人が最終治療目標数に近づいた。

ブラジル : 1999 年度は、最終治療目標数の 42%にあたる 2,746 人が治療を受けた。

コロンビア : 唯一のオンコセルカ症感染危険地域である Naiciona では治療対象者の 92%が治療を受けた。IACO`99 はコロンビアにおいてオンコセルカ症は撲滅されたと考えている。

エクアドル : 治療対象者の 89%にあたる 19,321 人が治療を受けた。IACO`99 は 2000 年、エクアドルに

おけるオンコセルカ症撲滅宣言を推奨した。

グアテマラ：年間治療対象者の 59%、最終治療目標の 48%にあたる 131,586 人に年に 1 回の治療が行われた。 IACO`99 で治療計画の改良が求められた。

メキシコ：年間治療対象者の 96%、最終治療目標数の 96%にあたる 152,624 人が治療を受けた。 Oaxaca でオンコセルカ症は撲滅したと考えられ、 IACO`99 は 2000 年、メキシコにおけるオンコセルカ症撲滅宣言を推奨した。

ベネズエラ：1998 年までの累積治療率は 91%であった。245 のオンコセルカ症感染危険地域で治療が行われたが、 IACO`99 で 618 の地域における治療が求められた。

IACO`99 における他の話題： IACO`99 で 6 カ国、45 地域のオンコセルカ症感染監視区域でのイバルメクチンの効果が報告された。全ての地域で皮下のミクロフィラリアは減少した。（詳細 OEPA@guate.net）

編集後記：西半球におけるオンコセルカ症撲滅は、手の届く位置となったが、成功するかどうかは国家および国家間のハイレベルな参画と協力にかかっている。これから 8-15 年間、イバルメクチンによる治療が継続されるが、供給における不平等性の排他、供給分配方法の統一が撲滅に向けて必要となる。

図 2：アメリカ大陸オンコセルカ症感染監視区域におけるミクロフィラリアの検出、1991 - 1999（WER 参照）

参照：¹No.37、1996、p.277-280 ²No.29、1997、p.215-218 No.2、1999、p.12-15 No.45、1999、p.377-380

< イエメンにおけるメジナ虫症についての報告 >

イエメンにおけるメジナ虫症の報告は 1997 年 9 月が最後であったが、1999 年以降、Lahj、Al-hoeidah、Al-Mahweet、でメジナ虫症感染らしき報告があった。虫体の未発見のため WHO はメジナ虫症と断定していないが、イエメンにおけるメジナ虫症撲滅宣言は遅れる見込みである。WHO はイエメンにおけるメジナ虫症撲滅に向け、調査活動強化のための計画を打ち出した。

- ・ 情報、教育、コミュニケーション方法の発達と普及
- ・ 保健婦（士）の教育強化
- ・ メジナ虫症調査の強化
- ・ メジナ害虫駆除計画の状況把握
- ・ 2001 年までの調査活動の延長

また、今回のケースでは病気の撲滅に向けて幾つかの重要点が明らかになった。

- (1) 撲滅宣言国の病気再興への警戒と感染危険地域における調査活動の継続
- (2) 疑わしい症例に対する調査を遅延した撲滅宣言国の再興可能性の認識
- (3) 撲滅宣言に至るまでの調査の徹底
- (4) 国連機関による根絶プログラムに対する非政府組織（NGO）、政府の援助の継続

流行ニュースの続報：

< インフルエンザ >

フィンランド：Turku で子どもにインフルエンザ A が集団発生した。garrison ではインフルエンザ A と B が流行。ドイツ：西部で子どもにインフルエンザが流行し、14 例のインフルエンザ A (H1N1) が分離された。ベルリンやマールブルグにおいてもインフルエンザ A (H1N1) の流行があった。

イスラエル：インフルエンザ A が流行。インフルエンザ B の流行もわずかに見られた。

スロヴァキア：12 月の 3 週目から、子どもに流行したインフルエンザは終息した。44 例中 14 例がインフルエンザ A (AII A、H1N1) によるものだった。参照：¹No.1、2001、p.8 ²No.50、2000、p.416

（網代直子、塚本康夫、小西英二）